わがまち紹介

人いきいき　町わくわく　童話村　たきのうえ
滝上町

滝上町基礎データ

総人口	2,172人 （R７年８月末現在）	製造品出荷額	小規模により未公表 （R２経済センサス）
老齢人口（高齢化率）	963人　44.3% （R７年８月末現在）	卸・小売年間販売額	小規模により未公表 （R２経済センサス）
世帯数	1,271世帯 （R７年８月末現在）	一般会計規模	5,364,397千円 （R７当初予算）
人口密度	2.83人／㎢		
面積	766.89㎢	町の木	サクラ
農業産出額	3,210百万円 （R５市町村別農業産出額）	町の花	シバザクラ

滝上町の紹介

渚滑川と渓谷

滝上町は、渚滑川の上流に位置し、東側は紋別市、西側は上川町・下川町・士別市、南は遠軽町、北は興部町・西興部村に隣接しています。地勢は、北見山脈の中にあって、北見富士、天塩岳、ウェンシリン岳などの高山に囲まれた山間地域であり、町域面積の約90%が山林で占められ、このうち約85%が国有林で占められています。地形は狭長平坦であり、その中央を天塩岳に源を発した渚滑川が各支流を集め貫流し、下流の紋別市を経てオホーツク海に注ぎ込んでいます。

清流や渓谷、森に抱かれ、10万㎡の芝ざくらが咲き誇る「芝ざくら滝上公園」や国内有数の産地を誇る「薄荷」など自然の恵みと暮らしています。国内でも珍しい、市街地を流れる渓谷「錦仙峡」にある遊歩道は、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」のひとつであり、ウォーキングやバードウォッチングを楽しむフィールドとして親しまれています。天塩岳を源に滝上町を流れる「渚滑川」では、渓流釣りを楽しむことができます。この川には、「キャッチ＆リリース」区間があり、釣りを楽しむための、取り組みが地域に根づいています。

錦仙峡ウォーク

みかん箱から始まったまちづくりの物語

日本最大級の規模を誇る芝ざくらの大群落は、まさに感動の一言です。昭和32年、みかん箱一杯の苗を試植したのが始まりで、行政と地域住民の献身的なボランティア活動により、根分けを繰り返し、毎年増殖を重ね、いまや10万㎡の大群落に成長しました。花の鮮やかさばかりではなく、甘い香りが滝上の町を包み込みます。５月上旬から下旬にかけて、丘の斜面を敷きつめたように咲き続ける芝ざくら。見頃時期には「芝ざくらまつり」が開催されます。毎年多くの観光客が芝ざくら滝上公園を訪れ、賑わいをみせています。

和ハッカ生産日本一

和ハッカ畑

滝上町は全国一の和ハッカ産地です。冷涼な気候と肥沃な土壌を生かして明治後半から始まり、100年以上の歴史があります。ピーク時には1,100ha以上あったハッカ畑も年々減少していき、現在では約６haの作付となってしまいましたが、５戸の生産者の熱い思いにより途切れることなく栽培、蒸留作業が続けられ、国内の95％が生産されております。近年、安心安全な食が求められている中、国内産和ハッカを希少として使用したいと問い合わせが増加し、和ハッカの需要拡大が見込まれており、生産拡大するチャンスではありますが、供給が追い付いていないのが現状です。

和ハッカ商品

さらには、令和元年度に滝上町産の和ハッカを原料としたチョコミントアイスバーがセイコーマートにて販売開始され、以来今日まで和ミントソーダ、和ミントモヒートなど15商品が販売となり、地域ブランドの向上と産業振興への協力やこれまでの相互の連携を更に強化するため、令和７年９月に株式会社セコマと滝上町は連携協定を締結しました。

2050年ゼロカーボンシティを目指します！

本町の強みである木質資源を核として活用するエネルギーの観点において自立し、環境にやさしく災害に強く、地域特性を活かした産業がともに発展する活気のある町として、脱炭素社会の構築を目指しています。

主な取り組みとして、森林資源の循環利用を推進する供給体制の確立を図り、耕畜連携による木質バイオマス資源の利活用の取組事例を基盤として、さらに各産業との連携の拡充を図り、木質バイオマス資源を核とした熱供給、電力供給の体制整備、自家消費型の太陽光発電の普及、ZEHやEVの普及を図るための普及啓発に取り組むとともに、支援体制を確立し、ゼロカーボンを本町の重点施策として、全町的に取り組む計画を推進中です。

中でも、建築材は町内の森林から伐り出し

たSGEC森林認証木材を使用し、カラマツ集成材240㎥、トドマツ集成材100㎥を活用し、基準一次エネルギー消費量から75％削減するNearyZEBを取得する国民健康保険診療所の建替工事は、令和５年度に着手、令和７年７月末に完了し、９月25日から診療開始の運びとなりました。平成元年度の役場庁舎建替え以来の大型事業であり、町民の暮らしの中でも最も大切な公共施設となります。

これまでも化石燃料からバイオマスエネルギー活用へと取り組んできましたが、さらに、脱炭素社会を目指し「人いきいき 町わくわく　童話村 たきのうえ」のテーマにある10年、50年、100年後も、美しく自然が豊かで、花と香りに包まれたまちづくりを未来に繋ぐため、自然環境を守り、ゴミを減らし、再生可能エネルギーを取り入れるなど、町民・事業者・町が協働して積極的に取り組むため、令和４年６月に2050年ゼロカーボンシティを目指します！と宣言しました。

もう一つの宣言、「認知症とともに生きるまち 滝上」

認知症防止

滝上町では、認知症になっても住み慣れた地域で生きがいと希望を持ち、意志と権利が大切にされ、安心して自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指しています。

令和７年３月に介護保険事業権利擁護事業・高齢者虐待予防事業として、認知症について知るセミナー「認知症と共に暮らす地域づくり」を開催し、国民健康保険診療所長が「認知症になっても住み慣れた滝上で暮らすために」と題し認知症について学び、予防と早期発見へ理解を深めるとともに、「認知症とともに生きるまち 滝上」を宣言し、認知症の方を含む誰もが住みやすいまちを目指すことを誓いました。

高齢者スポーツ大会

AIを活用したスキル向上

令和７年10月から地域活性化起業人制度を活用し、研修会や体験会を開催する中から政策課題や組織運営に民間の知見を導入することで、職員のスキル向上や町民サービスの向上、さらには外部人材との協働による地域の活性化と将来世代への持続可能な体制構築を図ります。

主な内容は、生成AIを活用した業務改善に取り組み、「滝上町AI活用ガイドライン」を策定し、自治体DXによる業務の改善を目指します。また、地域活性化起業人の活用において滝上町に興味関心のある民間企業等を招聘することにより、まちが抱える課題を解決するために町と起業人とのマッチング体制を整え受入れを強化し、町外人材の活用を図ります。

滝上町の四季

【春】芝ざくら

【夏】童話村ふるさとまつり

【秋】錦仙峡

【冬】洛陽の滝